

1 学校教育目標

広い視野をもち、夢を追いかけ、未来にはばたく人間を育成する。

- ・自ら学ぶ人
- ・協力しあう人
- ・健やかな人

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学ぶ生徒を育む学校 ・豊かな心を育む学校 ・地域が誇れる学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・目標をもって自ら学ぶ生徒 ・規範意識をもって互いに協力しあう生徒 ・健康を意識し、体力向上に努める生徒
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・向上心をもって実践力、指導力を高める教師 ・生徒に寄り添い、情熱をもって職務を遂行する教師 ・生徒、保護者、地域から信頼される教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

1 学校の現状

社会状況が落ち着き、教育活動の制限も緩和される中、生徒たちの笑顔と笑い声があふれる学校が戻ってきた。特に、本校の二大行事である「運動会」と「江北桜祭」においては、生徒アンケートや事後の作文等で表れているように高い達成感を体験する場となった。教員と実行委員が協力し、実行委員会での生徒の取組を最大限に生かして学校が一つとなり、各クラスの団結力を高める活動ができ、生徒の自治の力を育むことができた。また、学校生活では、落ちついた雰囲気の中で教育活動が継続して行われ、生徒たちは笑顔と元気なあいさつをして、授業や学校行事・生徒会活動・部活動等にも意欲的に取り組んでいる。

2 前年度の成果と反省

<成果>

○令和5年度区調査通過率は令和4年度60.8%から67.8%に+7.8%大きく上回った。

基礎学力の定着に向けた、学習コンテストや家庭学習ノートの点検活動など地道な指導の成果が表れた。

○生徒会による全学年の交流レクリエーション（生徒会企画）や他学年への応援活動など、生徒の企画・運営による活動により、生徒同士の健全な交流が深まり、学校全体の生徒活動が活性化した。

○生徒アンケートより「仲間を大切にし、思いやりの気持ちをもって仲間と接している」の問いに対して、肯定的評価が98%あった。仲間同士のトラブルがあってもその都度解決し、良い関係を保とうと努力している様子が見られた。

<課題>

- デイリーノート等の提出はほぼできているが、家庭学習の習慣化についてはまだまだ努力が必要である。生徒が自ら課題を見つけ、学習に取り組む習慣を身につけさせていくことが課題である。
- 電子教科書や大型ビジョンなどの ICT 機器の活用はできているが、タブレット端末を活用した授業には個人差がある。タブレット端末を含め効果的な ICT 機器の活用は今後の課題である。
- 特別支援教室の運営は順調にできているが、通常学級の生徒・保護者および教員も含めて学校全体で特別支援教育の理解促進を深め、組織的に取り組むことが課題である。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな心をもつ生徒の育成	○	○	○	○	○

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎学力の定着と自ら学習に取り組む生徒の育成		年度末到達度確認テスト 正答率60% 令和6年度区調査通過率 61%		年度末到達度確認テスト 平均正答率 57.1% 令和6年度区調査通過率 67.3%		・令和5年度区調査通過率は目標より6.3%大きく上回った。 ・学習の定着状況と具体的な取組は6(1)を参照		◎	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	授業改善とICTを活用した授業推進	全教科	年2回	足立スタンダードに即した授業改善と効果的なICT機器を活用した授業の実践。	年2回の授業観察時に実施の確認	全ての教員の実施を確認し、効果的な授業方法の工夫を検討する。	授業でのICTの活用はほぼ行われているが教科や個人によりやや差が見られる。	教科や個人によりタブレットの活用については差が出ているが教員内のミニ研修などを実施し技術の向上に取り組んだ。継続していく。	○

2 継続	学習コンテスト (漢字・計算・スペリング)	3教科	年3回	3教科の基礎的内容の定着を図る。 ・漢字7月 ・スペリング11月 ・計算1月	プレテスト 本テストの実施	平均合格率 80%を目指し、 達成感と自己 肯定感を高め る。	3教科の平均では 80%にはやや届かな かったが、目標を達成 できた教科もあつ た。	コンテストの入賞を 目標として多くの生 徒が取り組み自己肯 定感を高めている。 継続していく。	○
3 継続	読書指導 と学力補 充	3教科	年間	朝のベーシックタイムと 放課後の学力補充におけ る読書指導および基礎反 復学習	進行管理(計 画と実施)	計画の90%以 上の実施	進行管理を2か月ご とに実施し、90% 以上の取組ができ た。	計画の90%以上は 十分達成した。読書 活動は読解力や語彙 力の向上に有効であ るので今後も継続し ていく。	○
4 継続	区学力調 査の検証 テストの 実施	3教科	9月	区学力調査の検証テスト を実施し、基礎学力の向上 を図る。	区学力調査の 検証テストの 実施	3教科の通過 率、正答率の 5%の上昇	3教科の通過率は 1.9%、正答率は 2.7%の上昇であ った。	通過率、正答率とも に目標を達成するこ とができなかった。 教科によって差があ ることが課題であ る。	△
5 継続	家庭学習 の習慣化	全学年 全教科	通年	家庭学習を習慣化させる ためにデイリーノート、家 庭学習ノートを活用し、自 学自習の習慣化を図る。	デイリーノー ト、家庭学習 ノートの確 認、生徒アン ケートの実施	毎日の家庭学 習の習慣化、生 徒アンケート 率80%以上。 家庭学習の定 着を目指す。	毎日のデイリーノー ト、家庭学習ノート の提出率は90%であ った。	家庭学習の点検作業 は毎日行い、苦労が あるが継続してい く。学習委員会のキ ャмпейンや生徒同 士による声掛けは大 変有効であるので今 後も活用していく。	○
6 新規	学校図書 館を活用 した自学 自習の推 進	全学年 全教科	定期テ スト1 週間前	放課後の学校図書館を活 用した自学自習を推進す る。(随時放課後も拡大し ていく)	定期テスト1 週間前	放課後の学校 図書館利用率 90%以上	定期テスト1週間前 の学校図書館利用率 は95%以上とな った。熱心にテスト勉 強に取り組む生徒が 多くみられた。	定期テスト1週間前 だけではなく、通常 時の放課後に自学自 習に取り組む生徒も 増加している。今後 も推進していく。	◎

重点的な取組事項－２		豊かな心をもつ生徒の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
豊かな人間性と社会性をもち充実した学校生活を送る生徒の高い割合		「学習や生活に関する調査」で該当項目の肯定的評価を以下の規準で判断 A=90%以上 B=70～89% C=70%未満	「思いやりの気持ち」「善悪の判断」「物を大切にする気持ち」について、生徒の意識調査での肯定的評価は95%以上「A」評価であった。	昨年度より数値は上昇しているが意識は高くもっている様子が見られる。他者を理解し学校全体の集団が向上していくように取組を継続していく。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
充実した道徳教育	道徳授業の時間 A=35回以上 B=30～34回 C=30回未満 調査で肯定的評価 A=90%以上 B=70～89% C=70%未満	<ul style="list-style-type: none"> 全教員のローテーションによる道徳授業の実践 いじめ撲滅週間の実施 人権学習週間の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳授業については「A」（35回実施） 全教員によるローテーションを実施し、授業変更等で授業時数を確保した。 	年間計画に沿って指導を行っているが、人権週間など、時期によって適した題材の活用も実施していく。また、指導者のスキルを向上させるために研修等にも取り組んでいきたい。	◎
意欲的な学習活動	調査で肯定的評価 A=90%以上 B=70～89% C=70%未満	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のやる気を引き出す足立スタンダードに基づく授業 学習課題の適切な管理 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の意識調査での肯定的評価は88%「B」評価であった。 放課後、学校図書館を利用し、自習に取り組む生徒が増加している。定期テスト前は、多くの生徒が自習に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生の肯定的評価は94%であった。学年が進行するにつれて上昇傾向にある。 学習委員会のキャンペーンなどを活用し、自ら学習に取り組む機会を増やし、意識を高めていきたい。 	△
思いやりの心をもった生徒の育成	調査で肯定的評価 A=90%以上 B=70～89% C=70%未満	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事への自主的な参加促進 生徒の自主性を生かした生徒会活動（委員会、部活動、交流活動等） 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の意識調査での肯定的評価は96%「A」評価であった。 委員会活動や部活動、生徒会主催の交流活動・企画に多くの生徒が積極的に参加し、学年を超えた交流の場となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動会や江北桜祭などの学校行事では、ほとんどの生徒が達成感や協力の大切さを学んだ。 生徒会主催の交流活動が活発に行われ、参加者や応援者などかかわりをもとうとする生徒が増加し、生徒からも高評価となった。今後も継続させていく。 	◎

読書活動の推進	学校図書館の利用者数 (月平均) A=400人以上 B=300人 ~399人 C=300人未 満	<ul style="list-style-type: none"> ・読書の励行 ・図書委員会の活動活性化 ・学習活動での学校図書館の 利用促進 ・放課後の自習での活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の利用者数(月 平均) A=400人以上となった。 ・放課後の自習での活用とと もに利用者が年々増加して いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の読書活動がほぼ毎日実 施され、読書に取り組む習慣 が確立してきている。 ・学校図書館の自習室として の活用も定着してきている。 さらなる活用を目指す。 	○
体験・交流活動およ び継続的なキャリア 教育	ボランティア生徒数 A=100名以上 B=80~100名 C=79名以下	<ul style="list-style-type: none"> ・地域等での異年齢交流ボラ ンティア活動 ・体験活動の実施 ・職場体験及び上級学校訪問 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域等での異年齢交流ボラ ンティア活動には、250 名の参加があった。 ・2年生は職場体験、1年生 は都内企業への職場訪問を 実施し、事前事後学習にも意 欲的に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動への積極 的な参加が増加し、予定人数 に対して抽選となることも あった。 ・古典芸能の体験活動とオー ケストラ鑑賞教室に取り組 んだが大変好評であった。今 後も様々な企画を考え、実施 していきたい。 ・地域からの要請も増加し、 活発な交流の場となっている。 	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

ア 学力向上アクションプランについて

【成果】・令和6年度区調査通過率は令和4年度60.8%、令和5年度67.8%、令和6年度67.3%となり、目標値を大きく上回り、上昇傾向となっている。

- ・家庭学習への取組においては、毎日のデイリーノートや家庭学習ノートの提出率は85%となった。学習委員会を中心にクラスで呼びかけを行ったり、キャンペーン活動を実施したり、良い見本となる家庭学習ノートの展示を実施したことによる成果がでている。自ら学習に取り組む姿勢作りを生徒同士の自発的・主体的な取組から繋げていきたい。
- ・定期テスト前など学校図書館を活用し、自学自習に取り組む生徒が大変増加している。今後も推奨し、取り組んでいく。

【課題】・国語において、文章の要約や漢字の書き取りを苦手とする生徒が多い。

- ・英語において、記述式の問題を苦手とする生徒が多い。
- ・数学において、図形を苦手としている傾向や正確な計算力が身につけていない生徒が多い。

【対策】・国語において、漢字・語句の定着を図るため、週に1回程度小テストを行い、漢字の読み書きの練習・指導を重点的に行っていく。

- ・英語において、ライティング力を定着させるため、要点を確認する問題や要約に取り組ませ、文章を1つのまとまりとして捉える力を養成していく。
- ・数学において、見通しを立ててから立式することや、計算過程を大事にすることにより、系統立てて自力解決できる力を養っていく。

イ 豊かな心をもつ生徒の育成について

【成果】・生徒会が中心となり、企画・運営を行う全学年の交流レクリエーション（生徒会企画）や他学年への応援活動など、生徒同士の健全な交流が深まり、学校全体の生徒活動が活性化した。連携校の江北小学校150周年記念にむけて、全生徒から「笑顔のプレゼント」を行ったが大変好評であった。

- ・保護者アンケートの「生徒は熱心に行事や教育活動に取り組んでいるか？」の問いに対して89%の肯定的評価があった。
- ・生徒アンケートより「仲間を大切にし、思いやりの気持ちをもって仲間と接している」の問いに対して、肯定的評価が96%あった。仲間同士のトラブルが見受けられる場面もあるが仲間を大切にする心は皆がもっているため、学校生活における様々な経験を通して良好な関係を保っていけるように指導を続けていきたい。
- ・ボランティア活動に積極的に取り組む生徒が増加し、地域とのかかわりも増加している。今後も奨励していく。

【課題】・不登校の状況には様々な理由があり、不登校生徒の減少に課題が残る。

【対策】・生徒一人一人の事情を考慮し、校内の支援委員会を活用したり、外部機関やスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとともに共通理解を図り、具体的な対応につなげていく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

本校では生徒が主体的に活動に取り組む生徒会活動や自治活動に力を入れています。生徒会活動では、委員会活動や部活動など縦割りの生徒集団の中、上級生がリーダーシップを発揮しながら全体をまとめ、異なる学年集団でも一体となった活動に取り組んでいます。学習委員会の活動では、定期テスト前に委員が予想問題を作成し予想問題に取り組むなどの活動に取り組んでいます。家庭学習においても生徒からの声掛けを通じて、家庭学習の定着に取り組んでいます。生徒会が中心となって取り組む生徒会企画では、生徒が企画・運営に取り組み、学校全体で行事を楽しんでいます。今後も生徒の自治の力を大切にして伸ばしていきます。

(3) その他（学校教育活動全般について）

学校の二大行事である「運動会」「江北桜祭」は、生徒の実行委員会が中心となり行事を支えています。ここ数年の厳しい状況の中でもその流れを止めずにしっかりとその伝統を継承してきました。実行委員は学校全体の中心となり活動し、さらにクラスをまとめるためのリーダーとしても取り組んでいます。ここでも縦割りの集団の中で自治の力をはじめ様々な力をつけていきます。これからも良き伝統を継承し、さらに発展させるよう生徒と教職員が一体となって、努力していきます。